

発 達 2132

幼稚園における「お手紙ごっこ」活動（2）

— 表記方法と表記ルール —

○秋田喜代美 藤岡真貴子 無藤 隆 安見克夫 荒牧道子 熊本一美 中島静江
 （立教大学）（お茶の水女子大学）（板橋富士見幼稚園）（木内鳩の家幼稚園）（中央会堂幼稚園）（すずらん幼稚園）

【問題と目的】

幼児の読み書きの習得状況や条件に関する研究はわが国でも数多く行われてきている。しかし、表記体系、特に文字の表記方法についてどのような知識をいつ頃からどの程度持っているのかはあまり検討されていない。Karmiloff-Smith(1992), Landsmann & Karmiloff-Smith(1992)は、幼児は表記を指示伝達の機能に有効に使用する以前から表記体系に関する知識（表記間の閉塞性制約、要素-系列制約、指示伝達制約）を持っており、それらの知識は当初暗黙的な手続き的知識であるが自覚的な知識へと表象が書き換えられ、独立した知識領域として確立されていくこと、年長になると表記が有意味な指示伝達機能を果たすかという指示伝達制約に敏感になることを示している。

だが、彼女らの研究はアルファベット圏での研究であるために、音節文字である日本語にあてはまらない制約や日本語独自の表記知識も存在すると考えられる。また子どもは文字体系の表記法に関する知識だけではなく、生活の中で絵本や手紙など様々な談話固有の表記に関する知識も身につけていると考えられる。そこで本研究では、保育場面で子ども自身が書いたお手紙の分析を通して、幼児がどのような表記方法を使って手紙を表し、また表記に関してどのような知識を持っているのか、園での関わり方がそれらの知識に影響を与えるのかを検討することがねらいである。

【方法】（1）と同一のお手紙を、表記方法ならびに表記ルールという観点から分析する。

表記方法：絵、ひらがな、カタカナ、数字、アルファベット、飾り記号（☆やハート等）、園に設置されているスタンプやシールの使用などのうちどの表記法を使用しているか、またどの組み合わせを行っているかを分析する。

表記ルール：

A 文字表記に関するルール（形式に関するルール）

a 表記混合禁止ルール：多種類の表記法を同一文節内で混合していないかどうか（日本語では頭部、尾部ならばよい）
 b 文字方向ルール：縦書きは右から、横書きは左から書かれているか

c 数字方向ルール：算用数字は横書きで書かれているか

B 手紙表記に関するルール（指示伝達機能のためのルール）

a 縦書き・横書き混入禁止ルール：手紙の同一面において縦書き横書きいずれかに統一されているか

b 名前位置ルール：宛名や差出人などが書かれている場合に決められた位置にかかっているか

c 表記位置ルール：手紙では文字、数字を書くべき所と文字や絵などいずれの表記を用いてもよい所があるが、文字数字をそれぞれ書くべき所に他表記を用いていないか

【結果と考察】

1 **表記方法：**絵を使用した手紙は年長では38%、年中、年少ではそれぞれ60%代であり、年長で減少傾向がみられるのに対し、一方ひらがなは年長99%、年中94%、年少47%と年中、年長で増加している。数字やカタカナ、アルファベットは全体として少ない。また飾り記号の使用が年長では22%、年中9%、年少3%と年齢による増加傾向がみられた。園差はスタンプやシールの使用、絵の使用において差がみられた。

使用表記の種類をみると年長、年少では1種類のみの表記を使用した手紙が多いのに対し、年中では2種類以上の複数の表記をあわせて使用した手紙が多い。絵のみ、絵とかな使用、かなのみ使用をみると年長で文字のみ使用が年長で増加する傾向が見られた。かな文字の習得が影響していると考えられる。絵文が組み合わせて使用される時に絵が文を補助する挿し絵的機能を果たすのか、相互独立かをみると、全体の95%は独立であり、同一内容を複数の表記法で伝達するといった使用は行っていないことがわかる。

2 **表記ルール：**6種類のルールを想定したが、逸脱の多かったのは表記位置ルール（全体の22%）、文字方向ルール（15%）、縦書き・横書き混入禁止ルール（12%）であった。表記混合ルールを逸脱した者は0.3%と非常に低く、単語レベルでの表記に関する知識はかなり早期から習得されているのではないかと推察される。ルールの逸脱は年中が年長に比べ多く、その多くが上記3ルールである。ここから、文字レベルでの表記に関する知識の習得は早い、文字方向や縦書き横書きの混入禁止など談話レベルでの日本語固有の慣習的ルールや手紙の表記位置ルールという手紙談話固有のルールは幼児期後半の文字習得後に実際の使用を通して習得されていくのではないかと考えられる。本研究は産出された手紙の分析から知識を推定しているが、今後さらに面接による表記知識の検討が必要だと考えられる。